

第3次たからづか食育推進計画(案)に係る
パブリック・コメントの実施結果について(報告)

第3次たからづか食育推進計画の策定に当たり、令和4年(2022年)11月28日開催の第16回都市経営会議を経て、パブリック・コメント手続に基づく意見募集を実施しましたので、下記のとおりその結果を報告します。

また、市民等から寄せられた意見を踏まえ、必要な修正等を行いましたので、併せてお知らせします。

記

1 意見募集の実施結果について

(1) 募集期間

令和4年(2022年)12月12日(月)から令和5年(2023年)1月13日(金)まで

(2) 意見提出者数

8人 (郵送1人、電子メール7人)

(3) 提出意見数

34件 (計画案に反映した意見14件、計画案に反映しなかった意見11件、感想等9件)

(4) 実施経過

11月28日 都市経営会議へ付議

12月8日 市議会正副議長説明

12月9日 市議会各議員へ資料提供

12月12日 意見募集開始

12月16日 文教生活常任委員会(所管事務調査)にて計画案の説明

1月13日 意見募集終了

1月23日 宝塚市食育推進検討会・第3次たからづか食育推進計画策定検討会に実施結果ならびに意見の取扱いについて報告・修正

2月9日 宝塚市食育推進会議に実施結果ならびに意見の取扱いについて報告・修正

(5) 添付資料

ア 意見と市の考え方の公表について

イ パブリック・コメント手続に基づく意見募集の結果一覧表

ウ パブリック・コメント手続以外の修正内容一覧表

2 意見を踏まえた修正後の計画案について

別添の「第3次たからづか食育推進計画(案)概要版」のとおり

第3次たからづか食育推進計画(案)についての 意見と市の考え方の公表について

宝塚市では、「第3次たからづか食育推進計画(案)」について、計画策定の趣旨や内容等を広く公表し市民の皆様からの意見を反映するため、意見募集(パブリック・コメント手続)を実施しました。

その結果、市民等の皆様から次のとおり意見をいただきましたので、意見の内容とそれに対する市の考え方を公表します。

この度は、貴重な意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

- 1 意見の募集期間 ※意見募集は終了しました。
令和4年(2022年)12月12日(月)から
令和5年(2023年)1月13日(金)まで

2 意見の募集内容(概要)

第2次たからづか食育推進計画が令和4年度末で終了します。これまでの取組の成果や食をめぐる諸問題を踏まえ、第3次たからづか食育推進計画(案)では、食育の推進は持続可能な社会の実現に向けた礎になる取組であることから、農に触れ農を知る体験を増やす、食品ロスを意識することを新たな目標に加え、持続可能な社会の実現に貢献することや、新しい生活様式やデジタル化に対応したSNSによる情報発信、オンラインによる講座の開催など、具体的な施策を検討しながら啓発をしていきます。

また、計画の概要や市民の皆様への食育の実践につながる具体的な取組を掲載した概要版を啓発の場で活用します。

3 意見募集(パブリック・コメント手続)の実施結果

(1) 意見提出者数 8人 (内訳) 郵送 1人
電子メール 7人

(2) 提出意見数 34件

(3) 意見の内容と市の考え方及び見直しの結果

(内訳) 計画案に反映した意見 14件
計画案に反映しなかった意見 11件
その他 9件

詳細は、別紙「第3次たからづか食育推進計画(案)」に対するパブリック・コメント手続に基づく意見募集の結果一覧表のとおりです。

(4) パブリック・コメント手続に基づく意見募集以外での修正内容

詳細は、別紙「第3次たからづか食育推進計画(案)」に対するパブリック・コメント手続に基づく意見募集以外での修正内容一覧表のとおりです。

4 実施結果の公表方法

意見募集(パブリック・コメント手続)の実施結果及び意見を反映した計画書の概要版・本編は、市ホームページ及び市の窓口にて公表しています。

(1) 市ホームページ (<https://www.city.takarazuka.hyogo.jp>) のトップページから以下のいずれかで検索可能です。

ア 健康・福祉>食育>食育計画について>「第3次たからづか食育推進計画(案)への意見募集(パブリック・コメント手続)に対する実施結果について」のページ

イ サイト内検索で「第3次たからづか食育推進計画」で検索

ウ ページ番号検索で「検索用ID:1049240」を入力し検索。
または、右記の2次元コードからもアクセス可能です。

2次元コード ⇒



(2) 市の窓口

宝塚市立健康センター、市役所内(市民相談課・地域福祉課、いずれも2階)各サービスセンター・サービスステーション、各公民館、各人権文化センター、男女共同参画センターで公表しています。

5 公表期間

令和5年(2023年)4月10日(月)から
令和5年(2023年)5月10日(水)まで

6 お問い合わせ先

〒665-0827 宝塚市小浜4-4-1 「宝塚市立健康センター」※
(市役所庁舎内ではありませんので、ご注意ください。)

電話番号 0797-86-0056

ファクシミリ 0797-83-2421

電子メールアドレス m-takarazuka0045@city.takarazuka.lg.jp

※宝塚市立健康センターは、宝塚市立病院の西側にある2階建の建物です。

(別紙) 「第3次たからづか食育推進計画(案)」に対するパブリック・コメント手続きに基づく意見募集の結果一覧表

ご意見ありがとうございます。
 ・意見の募集期間 令和4年(2022年)12月12日(月)～ 令和5年(2023年)1月13日(金)
 ・提出意見件数 34 件

No.	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
1	計画全体		「旬」という言葉がしばしば出てくるが、旬をちゃんと理解することは難しいと思う。例えばイチゴは今から(12月～)が旬と言われるが、そんなわけがない。 この旬と露地栽培などの旬と消費者が理解できるよう説明が必要ではないか?	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】 旬の時期に収穫された露地栽培の野菜や果物は、ハウス栽培のものと同味や栄養価だけでなく環境負荷の点でも異なることについて、学ぶことは大切と考えます。 ご意見に関しましては、計画書33ページの施策6「環境を意識した食生活の推進」取組の方向性と主な取組(1)「自然の恵みを意識した食べ物を大切にす食生活を推進します」に含まれており、具体的に啓発することが効果的と考えるため、原案のとおりとします。	【原案のとおりとします。】 ご意見の趣旨を踏まえ、目標の実現に向けて、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により啓発に取り組んでいきます。
2	8	グラフ	無回答の数字が肥満の項目にはみ出ている、分かりづらい。	【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】 ご意見のとおり、無回答の割合がわかりやすくなるよう工夫いたします。	【具体的な修正案】 引き込み線を入れるなどして、見やすく修正します。
3	8	グラフ	20歳代の女性のやせ割合が非常に高く、一方で男性は壮年期における肥満の割合が高いことが大きな課題であるように感じますが、そのことに対する具体的な施策が見えにくいように思います。	【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】 20歳代女性のやせや壮年期の肥満は、大きな課題の1つと考えています。 計画では、ライフステージごとの取組 23ページ(5) 青年期・壮年期の1行目、「健康と食生活のかかわりを理解し望ましい食生活を確立できるよう、個別相談等の開催や食に関する情報発信等を行う」という記述に適正体重に関する内容を含めており、24ページの具体的取組の中で推進する食育(1)正しい健康の情報の2つ目に、自分の適正体重や食べ物と身体との関係について学びましょう、3つ目に、妊娠中は、特に望ましい体重増加について理解しましょうと、市民の皆様に取り組んでいたきたい具体的な内容を記載しています。 また、概要版の6ページには「自分の適正体重を意識しよう」と、適正体重の求め方や20歳代の女性の方へ向けた啓発について記載しておりますが、計画書にも具体的な啓発内容がわかるように、他の啓発も含めて追記します。	【具体的な修正案】 概要版の3～10ページの内容を 計画の第4章 7「目標に合わせた啓発内容」(35～42ページ)として記載します。 概要版の配布時にはライフステージに合わせ適正体重に関する啓発を行うほか、インターネットやSNS等を活用し、若い世代の特性やライフスタイル・ニーズに合わせた取組を行う等、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により啓発していきます。
4	9	下3行	資料：兵庫県における健康寿命の算定結果「令和2年健康寿命」(令和4年10月末公表) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、(ア)男性 兵庫県の健康寿命と支援や介護が必要な期間の合計は100になっていません。 とあるが、構成比は計画に記載されていない。不要なのではないか。	【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】 いただいたご意見を踏まえ、右記のとおり修正します。	【具体的な修正案】 健康寿命及び支援や介護が必要な期間(平均寿命と健康寿命の差)は、小数点以下第3位を四捨五入しているため、(ア)男性 兵庫県の健康寿命と支援や介護が必要な期間の合計は平均寿命と一致しません。

No.	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
5	13	表	<p>第2次計画の目標の達成状況について、共食機会の減少にはコロナ禍も大きく影響しているように思われ、食育において家庭が担う部分はより大きくなっているように感じます。</p> <p>項目①の20歳以上の食育に関心を持つ人の割合が減少していますが、子世代にもつながっていくことが考えられるため、どのように推進していくかが目標達成に向けた課題だと感じました。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>食育に関心を持っていただくために、イベントや講座等による啓発のほか、のぼりや横断幕、インターネットやSNS等を効果的に活用する等、様々な機会を捉えて啓発していきます。</p>	<p>【取り組みを推進していきます。】</p> <p>食育の分野は、家庭、保育所（園）、学校園、農業、環境等、広範囲にわたるため、計画では、22ページ以降の第4章 6つの施策の展開に、施策ごとの取組を掲げています。</p> <p>目標の実現に向けて、市や教育機関だけでなく様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働によりライフステージやニーズに合わせた啓発に取り組んでいきます。</p>
6	13	表	<p>項目②の朝食の欠食に関して、20代の若い世代だけでなく幼児～中学生についても増加しているのが非常に気になります。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>アンケート調査の結果、20代の若い世代・子ども共に朝食を食べない理由として、起きるのが遅く食べる時間がないことや朝はおなかがすいていないことが回答されていました。</p> <p>コロナ禍でのアンケート調査となったことや、多くの食育事業が実施できなかったことも、朝食の欠食増加の理由の1つと考えます。</p>	<p>【取り組みを推進していきます。】</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、早寝・早起きの規則正しい生活リズムの大切さに加えて、今後は、朝食を食べることの必要性や簡単に作れる朝食レシピの紹介、コンビニの食材を活用した朝食レシピ等の朝食に関する啓発を充実させていきます。</p> <p>特に若い世代に対しては、インターネットやSNS等を活用し、新しい生活様式に対応した啓発方法を検討しながら実施します。</p> <p>また、子どもに対しては家庭だけでなく、保育所（園）・学校園においても取り組む内容と考え、計画書27ページ、施策2「保育所（園）・学校園における食育の推進」の具体的取組において、早寝・早起き・朝ごはんの、規則正しい生活リズムを身につけることを掲げて、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により啓発に取り組んでいきます。</p>
7	13	表	<p>項目④の家庭内で「食」に関する会話をしている人、項目⑩の食に関するマナーを知っている人が増えている一方で、項目②の子どもも含めた朝食欠食者の増加、項目⑤のお手伝いや項目⑨の食事のあいさつをする子どもの減少がみられるなど、意識と実践に隔たりがあるように思います。実践につながるような施策をお願いします。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>大人が家庭で正しい見本となることにより、子どもは自然に正しく食を選択でき、正しい食習慣の実践につながると考えます。</p> <p>しかし、家庭だけで取り組むことは難しいと考えるため、親子を対象とした食育啓発を行いつつ、保育所（園）・学校園、地域、食に関わる様々な関係者や関係団体等が共に食育を推進します。</p>	<p>【取り組みを推進していきます。】</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、目標の実現に向けて、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により啓発に取り組んでいきます。</p>

No.	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
8 ・ 9	13 ・ 20	各表	<p>13ページの(2)指標の達成状況と、20ページの4 成果を示す重点目標の表の下記の2項目について、2次計画と3次計画では指標内容が異なっているが、現状の数値比較ができるのか？</p> <p>13ページ 項目①「食育に関心を持とう」の現状値 58.5%と、20ページ 項目1の現状値 61.5%は、アンケート調査が違うようだが、大変わかりづらい。</p> <p>13ページ 項目②「朝食を食べよう」と20ページの7では、対象年齢が違うが、統一する方がよいのではないか。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】</p> <p>第2次計画の評価では、計画書13ページ 第3次たからづか食育推進計画策定のためのアンケート調査の結果（平成27年度と令和3年度）を用いていますが、計画書20ページの第3次計画では、3年ごとに調査を行う「市民意識に関するアンケート調査」を用いて、より短期間で評価を行うこととしました。そのため、13ページと20ページに記載されている令和3年度の値は異なっています。</p> <p>第3次計画で指標内容を変更していることがわかるように修正します。</p> <p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>今回の調査の結果、特に20歳代の朝食を欠食する人の割合が増加傾向にありました。</p> <p>20歳代は、進学や就職等で自立した生活を始める時期であり、また近い将来、次世代（大人から子ども）へつなぐための大切な時期と考えることから、第3次計画では、20～30歳代から20歳代に対象を絞り、より重点的に取り組むこととしました。</p>	<p>【具体的な修正案】</p> <p>指標欄の「食育に関心を持つ人の割合」の横に（出典参照）を記載します。</p> <p>【原案のとおりとします。】</p> <p>インターネットやSNS等を効果的に活用する等、若い世代の特性やライフスタイル、ニーズに合わせた食育を、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により、啓発に取り組んでいきます。</p>
10	19	2 保育園・学校における食育の推進 「食育を啓発を」は「食育を啓発します」または「食育の啓発を行います」ではどうでしょうか？	<p>2 保育園・学校における食育の推進の(4)の部分</p> <p>「食育を啓発を」は「食育を啓発します」または「食育の啓発を行います」ではどうでしょうか？</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】</p> <p>いただいたご意見のとおり、表現を修正します。</p>	<p>【具体的な修正案】</p> <p>19ページ、27ページを「保護者や家庭に対して食育の啓発を行います」に修正します。</p>
11	23 ・ 24	(5) (6) の主な取組	<p>(5) 青年期・壮年期 (6) 高齢期の取り組み内容に「食育パネル展示」とありますが、場所が限られており、より多くの市民が目にすることが出来るように期待しています。</p> <p>ちなみに、宝塚駅などで掲げていた横断幕は、よく目立って良かったと思います。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>食育パネル展示は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中断している食育講座や調理実習の代替として始めた取組ですが、一定期間パネルを展示することが必要であるため、場所が限られてしまう課題があります。</p> <p>そのため、コロナ禍で外出を控えておられる方や展示されていることをご存じではない方のために、市ホームページの食育のページにパネルの内容を掲載しております。</p> <p>今後も市民の皆様が食に関する知識を深めていただけるよう、啓発方法を検討していきます。</p>	<p>【取り組みを推進していきます。】</p> <p>目標の実現に向けて、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により、引き続き市民の皆様へ食の情報を提供していきます。</p>

No.	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
12			<p>誰一人取り残さないのは当たり前のことであり、市のすくいの網にかかっている子ども達の把握（課題）と改善（5年後の姿以前に早期改善）の視点より申し上げます。</p> <p>経済的理由等の中には、親が精神疾患のため、乳幼児、小学低学年というお子さんが家庭での食事が十分ではない事例を知っています。</p> <p>また、子ども食堂への支援をさせて頂いていますが、子ども食堂にも周知が本人達に理解されていなかったり、思春期の精神的特徴から利用できなかったりということを知っています。</p> <p>そのように行政のさまざまな救いの網にかからない子ども達や家庭、小学生以下のヤングケアラーの事例を現状なども（案）の『課題』に加え、『5年後』は言うまでも無くあわせて早期改善案、改善事例を盛り込んではいかがでしょうか。</p> <p>以上のようなことも、民生児童委員さんや学校からどの程度把握されているのでしょうか。</p> <p>職場の現役職員、退職した職員には守秘義務があり、このような機会にも発信できないため、市の把握や（案）に到達できないように感じます。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>様々な理由から子どもが家庭で十分な食事ができないことや子ども食堂に関する現状は、認識しています。</p> <p>本市では、子どもと地域の課題を考えるラウンドテーブル（市民団体や社会福祉協議会が主体となって運営する市内子ども食堂運営者等の集まり）において必要な支援の検討を行っており、ヤングケアラーの問題については関係する部署で連携し実態調査を行っていくこととしています。</p> <p>いただいたご意見の取組は、これらを通じ食の支援を行っています。</p> <p>第3次たからづか食育推進計画では、22ページの家庭、25ページの保育所（園）・学校園、28ページの地域において、子どもの経済的困窮、孤食など、個人の努力だけでは健全な食生活につなげていくことが困難な場合があることに触れており、子どもが成長した時に、正しく食を選択し、正しい食習慣が実践され、自立した生活ができるようにすることが食育の趣旨であると考え、原案のとおりとします。</p>	<p>【原案のとおりとします。】</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、目標の実現に向けて、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により、学校の給食や家庭科の授業以外にも地域での料理教室や食育講座を開催し、食について学ぶ機会を作っていきます。</p>
13	25～27	学校給食	<p>「食の安全」に対して、「無農薬有機栽培」を学校給食にという運動が起こっている。現実に実施している自治体もある。「農薬＝危険」とは言わないが、ネオニコチノイド系農薬などの危険性も指摘されている。</p> <p>農水省も2050年までに有機栽培25%を目指す方向性も出されており、「環境配慮」も含めた意味で「無農薬・有機栽培・減農薬等」の文言を入れるべきではないかと思う。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>昨年度、一部の学校の給食で試験的に1週間オーガニック野菜を使用しました。</p> <p>しかし、学校給食を安定的に賄える供給量の問題や各学校への配送手段、購入価格などの課題があり、全市的な使用には至りませんでした。</p> <p>引き続き、学校給食での無農薬・有機栽培・減農薬等の野菜の活用に向けて検討していきます。</p>	<p>【原案のとおりとします。】</p> <p>ご意見は課題であると認識し、引き続き留意していきます。</p>
14	25～27	学校給食	<p>このような取り組みを市が率先して行って下さりありがとうございます。とても大切なことだと思っておりますし、我が子の給食を通して地産地消や各地の名物料理など宝塚市の意識の高さを感じているところです。毎日の給食は、最も影響を与えるものであるからこそ3点お願いがございます。</p> <p>米飯には牛乳でなくお茶を添えて下さい。</p> <p>普段の食事でご飯に牛乳を飲む人がどれだけいるのでしょうか。伝統的な食文化を守るということに反していないのでしょうか。カルシウムが必要ならば小魚で摂取の方が咀嚼を促し吸収もよくお腹を下すこともありません。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>学校給食の献立は、家庭では摂りにくいカルシウムなどの栄養素や1日に必要な栄養素の半分の量を学校給食で摂れるようにするなど、子どもの成長に欠かせない栄養素を中心に摂取基準が定められており、その基準を満たすように作られています。その中でも、牛乳は、子どもの体を作るのに大切なたんぱく質・カルシウム・ビタミン群が豊富に含まれており、学校給食で摂って欲しい栄養素を効果的に摂ることができます。</p> <p>牛乳をお茶に替えた場合、牛乳で補っていた栄養素を他の食材で賄うことになり、相当多くの食材が必要となりますが、学校給食費の1食当たりの単価の範囲内で献立を作らなければならないことから、牛乳ほどに栄養素を摂ることが難しくなります。過去にお茶の提供を検討したことがあります。家庭で作ると安価ですが、購入すると牛乳に近い費用が必要となり、お茶の提供には至りませんでした。</p> <p>家庭では考えにくい米飯と牛乳の組み合わせですが、成長過程における子どもの必要な栄養素を確保するためには、牛乳の提供は欠かせないものであるため、毎日の学校給食の献立に含まれています。</p>	<p>【原案のとおりとします。】</p> <p>米飯に牛乳は合わないとの意見があることは認識していますので、引き続き牛乳の在り方について調査研究をしていきます。</p>

No.	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
15	25 ～ 27	学校 給食	<p>パン食は極力減らし米を食べさせてあげて下さい。 本来日本人が食べていたものは米です。パンは今でこそ身近になりましたが、遠い国の食べ物で地産地消と対極にある上に砂糖や塩、イーストなど様々なものが添加されています。小麦製品は手軽であるため、家庭での米の消費を上回ってきていますが、給食でも出す必要があるでしょうか。近年、小麦を減らすことで発達障害の症状が抑えられるという報告もあるようですので、実験的でも構いません。早急にご検討頂きたいです。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>本市では、平成23年（2011年）1月から令和2年（2020年）8月まで、自校に炊飯設備を整備して米飯を炊飯する自校炊飯の取組を進めてきました。自校炊飯の取組を始めた当初、全校に整備が完了した際には、米飯回数を現状の週3回から増やす方向で検討していたことから、今後増やす方向で検討を進めていきます。</p>	<p>【原案のとおりとします。】</p> <p>本計画は全体の方向性を示すものですので、米飯の提供に関しては記載のとおりとします。</p>
16	25 ～ 27	学校 給食	<p>こどもに多くの楽しい経験をさせてあげて下さい。 コロナ禍の3年間、調理実習はできない、給食中は一切喋ってはいけないなど、こどもの貴重な時間を奪ってきました。食育は国語算数よりも大切なことではないでしょうか。コロナ対策のため15分以内で食べ終わるようコッペパンとジャムだけの給食を出す自治体がニュースになっていましたが、時間をかけても伝統的な食事を頂く方が、免疫をあげられ感染対策になると思います。感染対策の名の下、こどもが犠牲になっている今の状況を一刻も早く脱してほしいと願っています。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>子どもが一日の大半を過ごす保育所（園）や学校園は、子どもが食べる大切さや楽しさを知り、望ましい食習慣を身につけるなど、食育の場としての大切な役割を担っています。 本来であれば、学校給食を通じてそのような体験をしていただきたいところではありますが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、一定の制限がかかるのはやむを得ないことと考えます。しかし、本市の学校給食では、コロナ禍前と後で給食の内容に変更はなく、また、令和4年(2022年)11月末に黙食を取りやめ、大声でなければ会話を可能とするように運用を変更するなど、状況に応じた見直しを行っています。今後も状況を見ながら、新しい生活様式に対応してまいります。</p>	<p>【原案のとおりとします。】</p> <p>引き続き、子ども達が給食時間を楽しく過ごせるように努めていきます。</p>
17	30	中央	<p>「取組の方向性と主な取組」について 内の西谷夢市場については、立地が悪く公共交通機関での利用が著しく不便であることに加え、伊丹市のスマイル阪神や三田市のパスカル三田、猪名川町の道の駅などに比べ売り場規模もかなり小さく、わざわざ行くほどでもとを考えてしまう。 また、〇〇のついでという周辺環境ではないというネガティブ要因がある。 打開策として来てもらうだけでなく毎月一回程度の定期開催で、出張西谷夢市場として南部へ出ていく。 つまり、夢市場に売られている宝塚市産・宝塚市製造の生鮮品や加工品に限定して、夢市場の価格で、夢市場の人（店員さん）がアピア・ソリオ・イオン伊丹昆陽といった中核商業施設で日常の買い物として帰宅途中でも便利な12～19時程度まで出張販売会を行う。 これを行政も一体となって取組み、地産地消や宝塚市産への親しみや信頼関係を築き、ひいては、域内食料安全保障の向上に努めて頂く政策へと発展させ策定して頂きたい。 また、同時にこの方法は、各種朝市等と違い、西谷から出ることの難しい高齢の生産者の方や、品数が少なく朝市に参加するメリットがない栽培品目の少ない小規模生産者等にも生きるであろう。 いつも出荷している夢市場のシステムを使い、夢市場に持って行くだけで1点からでも出荷可能となるため、出荷者のやりがいと所得を向上させ、免許返納＝出荷できないから作付けしないということを防ぐことができる。つまり次のシーズンへの耕作意欲を持続させることができる。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>宝塚産農産物の地産地消の取組については非常に重要であると認識しています。 現在、毎月市役所グランドフロア（令和5年（2023年）2月13日から名称が「グランドフロア」から「1階」となります。）において、西谷産野菜や西谷産農産物を使用した加工品の販売を実施しています。（原則月2回ずつ 野菜2回、加工品2回）また、武庫川河川敷公園と宝塚市立文化芸術センターにおいて毎月朝市を開催し、西谷産農産物を取扱っています。 アピアやソリオ等の商業施設での販売については、施設ごとにテナント店舗と商品が重複しないよう配慮する必要がある等、一定の課題があると認識しています。 また、西谷夢市場からの出荷については、同施設（宝塚市立農業振興施設）内には大型冷蔵施設を備えた集出荷場があり、そこへ集荷された農産物を市内小売店の一部へ配送しています。そのため、南部まで車で出荷しに行くことができない生産者も南部の店舗へ出荷することができています。 引き続き、西谷夢市場指定管理者であるJA兵庫六甲農業協同組合と協議し、宝塚産農産物の地産地消推進に向け実現可能な方法を模索していきます。</p>	<p>【取り組みを推進していきます。】</p> <p>今後も課題については模索をしながら、引き続き、市役所内での販売や朝市の開催等の取組をとおして宝塚産農産物の地産地消促進に努めていきます。</p>

No.	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
18	31	上から2行目	<p>(2) 地産地消を推進しますの主な取組の1項目めに「宝塚朝市」とあるが、西谷朝市は、対象外ですか。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】</p> <p>いただいたご意見のとおり、西谷朝市においても地産地消の取組を行っております。 主な取組を修正します。</p>	<p>【具体的な修正案】</p> <p>主な取組に、西谷朝市（市内芸術文化センターで開催する「たからの市」内）を追記します。</p>
19	31	5	<p>(3) 食品関連事業者による食育推進活動 について 食品加工事業者に対し、行う支援の中で必要なことは、開発された商品に対し ①原材料農水産物の品質・流通量・流通状態が問題ないこと。 ②原材料農水産物価格が他産地の物と戦える価格で仕入れ可能であること。 ③販路が確立しやすい応援があること。 上記3点がそろって初めて生産継続が出来ます。 宝塚モノコトブランドは、宝塚〇〇と銘打っていても、他市・他地域原料の物や他地域製造の物が圧倒的です。言い換えれば食育の趣旨から導かれる宝塚市産の農産物利用を応援する形になっていません。 よって原材料表示に宝塚市産の文字がある商品の販路開拓応援という文言を主な取組にしっかり組み込むべきではないでしょうか？ また、花のみちや、サービスエリアに宝塚市産の原料表示のある宝塚市内で製造されたものだけを集めた販売コーナーを市の戦略として設置するくらいの具体的取組にすべきではないでしょうか？</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>消費者庁の食品表示基準によると、基本的に加工食品では、国産や国内製造とわかる表示があれば良いことから、宝塚産が記載されているか否かを問わず、宝塚産農産物を利用した製品の販売促進に取組んでいます。市が行う事業者への具体的な支援、販路については、JA兵庫六甲農業協同組合を指定管理者として、西谷夢市場（農業振興施設）に加工施設を設置しており、宝塚産農産物を使った加工品を西谷夢市場や市役所グランドフロアで販売されております。（No.17参照） 食品関連事業者へは、前述のように販売場所の提供等今後も支援を行っていきます。 また、宝塚ブランド「モノ・コト・バ宝塚」は、“宝塚らしい”「モノ（物）」・「コト（事）」・「バ（場）」を市で選定し、市内外に広くアピールすることで市の魅力発信を図ることを目的としています。その中で、食育の観点から、宝塚産農産物のPRなどの応援を行っています。</p>	<p>【原案のとおりとします。】</p> <p>今後も、食品関連事業者へ販売場所等の支援や、「モノ・コト・バ宝塚」における市内資源の魅力発信の取組の中で宝塚産農産物のPRをするなどの応援を行っていきます。</p>
20	31	計画11 概要版8	<p>具体的取組の中で推進する食育（市民の取組） について 食品加工事業者に対し、法定一括表示の原材料表示内に（宝塚市産）（兵庫県産）の文字を入れてもらうよう政策面でも打ち出す文言をぜひ入れるべきと考えます。 概要版8ページの食品表示のページ内で同時に地産地消へのPRを行うとよいであろう。 具体的には、原料の表示ルール（多い順から記載や産地表示を含めた優良表示について程度のダイジェスト）を行い、食品事業者と消費者双方の認識を共有させることが必要ではないだろうか。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>地産地消の意識を高めるため、原材料表示に宝塚産・兵庫県産の表示を入れることは大切なことと考えますが、基本的に加工食品では、国産や国内製造とわかる表示があれば良いことから、現在は事業者において宝塚産の原材料を使用している商品を、販促ポップなどを活用し、PRしております。県や市で独自ルールを策定することは困難ですが、宝塚産農産物を使った加工食品等事業者と消費者の双方が分かりやすく、宝塚産・兵庫県産を認識できる方法を研究しています。</p>	<p>【原案のとおりとします。】</p> <p>今後も、宝塚産農産物を使った加工食品等事業者と消費者の双方が分かりやすく、宝塚産・兵庫県産を認識できる方法を研究していきます。</p>

No.	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
21	33	一番下	「取組の方向性と主な取組」の主な取組（表）の「下水道処理施設を見学し、水を汚さないなどの啓発」とあるが北部地域での合併処理浄化槽の仕組みについても説明を入れてほしい。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】 「水」は人が生きていくために必要であり、水なくして生命活動はありえないため、計画に盛り込み、具体的な事業として「下水道処理施設を見学」を実施し、蛇口をひねれば水が出るのが当たり前の時代に、水道水はどこからきて、どこへ行くのかを知り、水を汚さない、無駄にしない等の啓発を行っていることを記載しています。 北部地域の合併処理浄化槽の設置による処理については、環境を守る取組の一環ではありますが、食育の観点からは上記のような啓発を行うことを目的と考えておりますので、合併処理浄化槽の仕組みの説明は、記載していません。	【原案のとおりとします。】 水を汚さない、無駄にしない等の啓発については、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆さまと、連携や協働により取り組んでいきます。
22	45	用語説明	用語説明 里山について 特有の生物の生息・生育環境として、また食料や木材など自然資源の供給、良好な景観、文化の伝承の観点からも重要な地域。 原生的な自然と都市の中間に位置し、かつては薪や炭にするための樹木の伐採、落葉の採取などを通じて、地域住民に継続的に利用がされてきたが、近年人の手が入らなくなったことによる荒廃が問題となっている。 上記のようにあるが、「地域住民に継続的に利用されてきたが、」との記述を「地域住民により継続的に管理と利用がされてきたが、」とし、共有財産として利用だけでなく管理においても住民自治の本旨に基づき行われてきたことが読み取れる記述にした方が適切ではないか？	【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】 ご意見のとおり、管理においても住民自治の本旨に基づき行われてきたことが読み取れるよう修正します。	【具体的な修正案】 用語説明の里山について、次のとおり修正します。 特有の生物の生息・生育環境として、また食料や木材など自然資源の供給、良好な景観、文化の伝承の観点からも重要な地域。 原生的な自然と都市の中間に位置し、かつては薪や炭にするための樹木の伐採、落葉の採取などを通じて、地域住民により継続的に管理と利用がなされてきたが、近年人の手が入らなくなったことによる荒廃が問題となっている。
23	概要版1		「5年後のみんなの姿」があることで、各施策と目標のつながりが分かりやすいと思います。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】 5年後のみんなの姿が実現するよう、関係課・関係団体等と取り組んでいきます。	【取組を推進していきます。】 目標の実現に向けて、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により取り組んでいきます。
24	概要版2		先日11/23（水・祝）農林水産省近畿農政局主催 食育推進セミナー「京の食文化を次世代につなぐ「料理&トークショー」（事務局：全国食育推進ネットワーク）を視聴し、著名な村田氏等京都の料理人が中心になり、京都の一部の小学校では授業の一環でだし等の授業を行っている事を知りました。「宝塚市は市民主体」とは言え、この様な取り組みも参考になるのではないかと思います。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】 だしには、味の基本の五味の1つである「うま味」があり、これが日本食（和食）特有のおいしさのベースになっています。 伝統的な日本の味、日本の食文化を次世代へ伝えていくためには、子どもの頃からだしの味に慣れ親しむことが大切と考えます。 本市においても、定期的ではありませんが、小学校に外部から講師を招いた「だし」の授業や、「だしのおいしさと健康」と題し、市民向けの特別講演会などを実施してきました。 今後もだしの魅力も含めた食文化の啓発を継続していきます。	【取組を推進していきます。】 ご意見の趣旨を踏まえ、市や教育機関だけでなく、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により食文化の啓発を継続していきます。

No.	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
25	概要版3	中央右側	<p>「食事のマナーを身につける」の文章について 「正しい姿勢で食べる等食事のマナーを実践することが大切です。」を「正しい姿勢で食べる、食事に感謝する等マナーを実践することが大切です。」または、「正しい姿勢で食べる、食事に感謝する等マナーを身につけることが大切です。」はいかがでしょうか。 3ページの内容では説教じみているともとらえられてしまうので、7ページにある「感謝の気持ちを込める」を入れてはどうかと思いました。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】</p> <p>食事のマナーとして、感謝の気持ちを持つことは大切なことと考えており、感謝の気持ちについては、7ページ「食事のあいさつをしましょう」のいただきます・ごちそうさまのあいさつで記載し、3ページの「食事のマナーを身につける」でのマナーは、行儀や作法を主として記載しています。原案のままいたします。</p>	<p>【原案のとおりとします。】</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、目標の実現に向けて、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により取り組んでいきます。</p>
26	概要版4		<p>中ほどの枠内、「汁物を食べる際は、減塩の工夫をしましょう」の部分「汁は全部飲み干さない」は、残すと排水（環境面）やもったいないという面などから少し抵抗があります。（外食、ラーメンなどの汁は辛すぎますが）</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】</p> <p>排水溝に流した汁物は、もったいない（食品ロス）、環境に負荷がかかる、下水処理され放流されるまでに経費や労力がかかることなどの理由から、汁を残すことへの抵抗感は認識しています。汁を飲み干さないのは、味付けが濃い場合等、健康づくりのため、やむを得ない場合と考えています。 No.27、28のご意見により、「汁を全部飲み干さない」の表現を修正し、汁物だけでなく食事全体の減塩の方法を記載します。</p>	<p>【具体的な修正案】</p> <p>「麺類や汁物等で味が濃いと感じた時は、汁を飲み干さない。」に修正します。</p>
27	概要版4		<p>中ほどの枠内、「汁物を食べる際は、減塩の工夫をしましょう」の部分について、減塩の工夫は汁物に限らないので、「汁物を食べる際は」はやめ、「減塩の工夫をしましょう」としてはどうか。（タイトルのようにする） また「汁は全部飲み干さない」の代わりに「麺類の汁は残しましょう」を入れてはどうか。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】</p> <p>日本人の塩分摂取量は、徐々に減少しているものの、目標には及ばない状況にあり、塩分を減らすように啓発する必要があります。 1日の食塩目標摂取量は男性7.5g未満、女性6.5g未満に対し、食塩摂取量は男性10.9g、女性9.3gとなっており、いずれも目標摂取量を超えています。（厚生労働省「日本人の食事摂取基準2020」「2019年国民健康・栄養調査」より） 塩分は汁物に限らず様々な食品に含まれています。 個人の食習慣に合わせ、塩分摂取について意識できるように、市ホームページの「上手に減塩しましょう」のページにアクセスしやすい2次元コードを貼付し、減塩についての情報を提供していきます。</p>	<p>【具体的な修正案】</p> <p>4ページの一冊下に、「食育 上手に減塩しましょう」の2次元コードを貼付けします。</p>

No.	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
28	概要版4		<p>中ほど、汁物記述・下段例 について 汁物を喫食する際に・汁は全部飲み干さないという記述は理解不能である。恐らく誤植だと信じるが、真剣に書いているとすれば、28ページから記載される食文化との整合性が取れない。 仮に、ラーメン・うどん・そば等の汁は全部飲み干さないという記述であれば納得できるが、食事と共に喫食するイメージの味噌汁やポタージュ・ミネストローネスープ等を指しているんだろうかと、推察する流れのイラストなので一般的な食習慣を考えると珍妙としか考えられない。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】</p> <p>汁物は、具沢山にすることで野菜やたんぱく質を摂ることができる等の利点もありますが、外食の汁物、市販のスープの素やインスタントスープには、比較的塩分が多く含まれており、塩分の摂りすぎになりやすいため、減塩の方法の例として示していました。 塩分は汁物に限らず様々な食品に含まれています。 個人の食習慣に合わせ、塩分摂取について意識できるように、市ホームページの「上手に減塩しましょう」のページにアクセスしやすい2次元コードを貼付し、減塩についての情報を提供していきます。</p>	<p>【具体的な修正案】</p> <p>4ページの一番下に、「食育 上手に減塩しましょう」の2次元コードを貼付けします。</p>
29	概要版4		<p>高齢者は水分を十分とることも大事だと思うので、減塩の工夫をすることで汁椀の大きさは小さくしないのがよいと思う。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】</p> <p>高齢者は水分不足にならないよう心掛けることが大切であり、主に水やお茶、果物や牛乳、豆腐など低栄養の予防につながる食品等から、水分補給を行うことが必要と考えています。 それぞれの状況に応じて減塩の工夫をしていただければと思います。 個人の食習慣に合わせ、塩分摂取について意識できるように、市ホームページの「上手に減塩しましょう」のページにアクセスしやすい2次元コードを貼付し、減塩についての情報を提供していきます。</p>	<p>【具体的な修正案】</p> <p>4ページの一番下に、「食育 上手に減塩しましょう」の2次元コードを貼付します。</p>
30	概要版4		<p>お盆にのった料理のイラストの副菜についての吹き出し「副菜で不足しがちなビタミンやミネラルをとり、体の調子を整えましょう。」の「不足しがちな」が副菜にかかっているのか、ビタミン以降にかかっているのかわかりにくいので、主菜と同じ表現、「副菜に含まれるビタミンやミネラルで体の調子を整えましょう」ではどうでしょうか。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】</p> <p>ご意見のとおり、より市民の方にわかりやすくなるよう、修正します。</p>	<p>【具体的な修正案】</p> <p>吹き出しについて、「副菜に多く含まれるビタミンやミネラルで、体の調子を整えましょう。」に修正します。</p>
31	概要版4		<p>中ほど、献立を立てる時のポイントの「②おもなおかずを決める」は、他の部分と同じ表現＝「主菜」としてはどうか。</p>	<p>【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】</p> <p>ご意見のとおり、より市民に分かりやすくなりよう、他の表現と合わせ修正します。</p>	<p>【具体的な修正案】</p> <p>②おもなおかずを決めるを ②主菜を決めるに修正します。</p>

No.	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
32	概要版4		主食・主菜・副菜を組み合わせる上手な工夫の仕方(例)に記したミートソースは、レトルト製品の多くは総量では、肉より野菜の比率が高いものが多いがこの記述で良いのか？	【ご意見ありがとうございます。計画案に反映いたします。】 ご意見のとおり、パスタ麺(主食)＋ミートソース(主菜)だけでなく、トマトや玉ねぎ、人参等も含まれていますので、修正します。	【具体的な修正案】 ミートスパゲティについて、パスタ麺(主食)＋ミートソース(主菜)＋玉ねぎ・人参(副菜)に修正します。
33	概要版8		中ほどの、「栄養成分表示」の成分表は、1食当り、100g当り、1小袋当り80gしか入っていないに100g当り、1袋に13枚入っているのに6枚当りと表を見てもバラバラだったり参考にしにくいこと多々あります。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】 栄養成分表示を見る上での基本となる部分で、表示の見方について具体的に啓発していくことが効果的と考えます。	【取組を推進していきます。】 単位の確認以外にも、表示を正しく理解し、日ごろから見る習慣や食品を選ぶ力を身につけていただけるよう、様々な分野で食育活動に取り組む関係者や関係団体など多くの皆様と、連携や協働により取り組んでいきます。
34			つい先日、人権文化センターに行きましたが、パブリックコメントの用紙には気が付きませんでした。年末まで、意見募集をされていることも知りませんでした。 募集時期も限られているなら尚更、用紙を設置している場所にチラシを貼る等アピールしても良かったのではないのでしょうか。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にいたします。】 第3次たからづか食育推進計画(案)に関するパブリック・コメントの実施につきましては、広報たからづか、市ホームページに掲載し、市ホームページからは資料をダウンロードできるようにしていました。 また、宝塚市立健康センター、市役所(市民相談課・地域福祉課・保育企画課・農政課・環境政策課・商工勤労課)、消費生活センター、フレミラ宝塚、各サービスセンター・サービスステーション、各公民館、各人権文化センター、男女共同参画センターには、気軽に持ち帰っていただけるよう、印刷物を設置し自由に閲覧できるようにしておりましたが、手に取っていただけるよう設置方法を工夫します。	【取組を推進していきます。】 今後、市がパブリック・コメントを実施する際の参考にさせていただきます。

(別紙)「第3次たからづか食育推進計画(案)」に対するパブリック・コメント手続き以外での修正内容一覧表

* パブリック・コメント実施後に、以下のとおり修正しました。

No.	ページ	行	該当箇所	修正前	修正後	意見区分	修正理由
1	表紙		計画の策定年月	令和5年(2023年)4月	令和5年(2023年)3月	1 職員 ② 所管課 3 その他	記載誤りのため。
2	1	4	「健全な食生活を実践できる力を育むことで、・・・」の表現	食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる力を育むことで、子どもから大人まで、すべての人々に大切なものです。	食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる力を育むことであり、子どもから大人まで、すべての人々に大切なものです。	1 職員 ② 所管課 3 その他	手段を示す「～で、」に読めてしまうため。
3	1	最後の行	期間の記載方法	令和5年度(2023年度)から5年間を計画期間とする、第3次たからづか食育推進計画を策定しました。	令和5年度(2023年度)から令和9年度(2027年度)までの5年間を計画期間とする、第3次たからづか食育推進計画を策定しました。	1 職員 ② 所管課 3 その他	計画期間を具体的に記載するため。
4	4	(4)	パブリック・コメントの実施	期間、意見提出者数、提出意見数の記載がない。	<期間> 令和4年(2022年)12月12日～ 令和5年(2023年)1月13日 <意見提出者数> 7人 <提出意見数> 34件	1 職員 ② 所管課 3 その他	期間、意見提出者数、提出意見数を追記するため。
5	21	表	各行のタイトル	項目	目標	1 職員 ② 所管課 3 その他	記載誤りのため。
6	21	No.13	単位のつけ方	840名/850名	840人/850人	1 職員 ② 所管課 3 その他	記載単位を統一するため。
7	21	No.14	年代の記載方法	20～30歳代/40～65歳代	20～39歳/40～64歳	1 職員 ② 所管課 3 その他	記載誤りのため。
8	35	5	1 取組の指標	そこで、食育を推進するにあたってふさわしい項目と指標(P20～21参照)を	そこで、食育を推進するにあたってふさわしい目標と指標(P20～21参照)を	1 職員 ② 所管課 3 その他	記載誤りのため。
9	38		1 開催状況	年の表記が和暦となっている。	全て西暦表記を追記します。	1 職員 ② 所管課 3 その他	西暦の追記のため。
10	38	第4回	1 開催状況 第4回	【答申】 令和5年 月 日()	令和5年(2023年)2月9日(木)	1 職員 ② 所管課 3 その他	開催日の記載、答申の削除をしたため。
11	38	第4回	1 開催状況 第4回	第3次たからづか食育推進計画素案について	パブリック・コメントの結果について	1 職員 ② 所管課 3 その他	記載誤りのため。

No.	ページ	行	該当箇所	修正前	修正後	意見区分	修正理由
12	45	用語説明	経済的困窮による食の支援	子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのない社会を目指し、子どもの貧困対策計画（宝塚市次世代育成支援行動計画に含む）において、（1）教育の支援（2）生活の支援（3）保護者に対する就労の支援（4）経済的支援を重点化すべき施策として、その充実を図ることとしており、これらを通じて食の支援を行う。	本市では、子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのない社会を目指して、子どもの貧困対策計画を策定し、施策の充実を図ることとしている。 また、子どもと地域の課題を考えるラウンドテーブル（市民団体や社会福祉協議会が主体となって運営する市内子ども食堂運営者等の集まり）において必要な食の支援を行っている。	1 職員 ② 所管課 3 その他	内容変更のため。
13	概要版表紙		計画の策定年月	令和5年（2023年）4月	令和5年（2023年）3月	1 職員 ② 所管課 3 その他	記載誤りのため。
14	概要版1		③ 地域・食文化の取組	③ 地域・食文化の取組	③ 地域の取組・食文化を継承する取組	1 職員 ② 所管課 3 その他	表現を丁寧にするため。
15	概要版2	No.13	単位のつけ方	840名／850名	840人／850人	1 職員 ② 所管課 3 その他	記載方法を統一するため。
16	概要版2	No.14	年代の記載方法	20～30歳代／40～65歳代	20～39歳／40～64歳	1 職員 ② 所管課 3 その他	記載誤りのため。
17	概要版4	一番下	主食・主菜・副菜を組み合わせて食べましょう		2次元コード 検索 [宝塚市 食育 脂質の摂りすぎに注意しましょう。]	1 職員 ② 所管課 3 その他	新たに追記したため。
18	概要版8	中央吹出	表示例横の吹き出しのタイトル	食塩を、摂りすぎていませんか？	塩分を、摂りすぎていませんか？	1 職員 ② 所管課 3 その他	記載誤りのため。
19	概要版11		1 計画策定の趣旨	令和5年3月に、第2次計画が期を迎えることから、	令和5年（2023年）3月に、第2次計画が終期を迎えることから、	1 職員 ② 所管課 3 その他	西暦の追記と、記載間違えのため。
20	概要版11		1 計画策定の趣旨	令和5年度（2023年度）から5年間を計画期間とする、「第3次たからづか食育推進計画」を策定しました。	令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）までの5年間を計画期間とする、「第3次たからづか食育推進計画」を策定しました。	1 職員 ② 所管課 3 その他	計画期間を具体的に記載するため。

第3次たからづか食育推進計画 概要版（案）

令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)

次世代へつなごう！ 正しい食習慣のバトン！



食育基本法では、食育とは生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることと位置付けています。

目 次

6本のバトン(施策)が目指す5年後のみんなの姿	P 1
みんなで目指す目標	P 2
具体的な取組に向けて	
食育に関心を持ちましょう	P 3
主食・主菜・副菜を組み合わせる食べましょう	P 4
朝食を食べましょう	P 5
食事のあいさつをしましょう	P 7
地産地消を意識しましょう	P 7
食の安全に関心を持ち、食品表示を意識しましょう	P 8
食品ロスを意識しましょう	P 8
日本の伝統料理を次世代へ伝えましょう	P10
第3次たからづか食育推進計画の基本的な考え方	P11

宝 塚 市

令和5年(2023年)3月

6本のバトン(施策)が目指す 5年後のみんなの姿

① 家庭の取組

食卓に主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が並び、健康的な食習慣を実践しています。



② 保育所(園)・学校園の取組 (子ども)

子どもが様々な経験を通していろいろな食べ物に親しみ、食べ物に興味や関心を持ちながら、意欲的に日常生活を送っています。



③ 地域の取組・食文化を継承する取組

地域の様々な人や団体は、食育の活動を行い活躍しています。
また、伝統的な食文化を守り、次世代へ伝えています。



④ 事業者の取組

地産地消の意識が高まり、生産者と消費者の信頼関係が深まっています。



⑤ 安全・安心な食への取組

食の安全・安心の必要性や重要性に関心を持ち、正しい情報や知識のもと、日常生活を送っています。

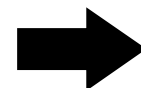


⑥ 環境を意識した食生活の取組

買い物の際は商品ラベルを確認し、地産地消を心がけ、食材を無駄にせず大切にすることを生活を送っています。



次のページからは、実際に食育に取り組んでいただくために、是非知っておいて欲しいことをまとめています。このページとあわせてご覧ください。



みんなで目指す目標

《重点目標:No. 6・8・9・12・14》

No.	目 標	指 標	対 象	現状値 R3 年度	目標値 R9 年度	主な該当 施策(P1)	参考 ページ
1	食育に関心を持つ	食育に関心を持つ人の割合	20 歳以上	61.5%	67.7%	①②③ ④⑤⑥	P3 ⇒
2	家族で食事をしよう	家族で食事を食べる回数を増やせるように心がける人の割合	3～5 歳児	64.1%	70.5%	①②	P3 ⇒
			小学 5 年生	59.0%	64.9%		
			中学 3 年生	52.5%	57.8%		
3	家庭で「食」を話題にしよう	家庭で「食」(食べ物)について会話をする人の割合	3～5 歳児	62.6%	68.9%	①②	P3 ⇒
			小学 5 年生	67.1%	73.8%		
			中学 3 年生	61.2%	67.3%		
4	食事のお手伝いをしよう	食事の準備や後片付けなどの食事のお手伝いをする人の割合	3～5 歳児	27.0%	29.7%	①②	P3 ⇒
			小学 5 年生	33.5%	36.9%		
			中学 3 年生	26.2%	28.8%		
5	食事のマナーを実践しよう	食事のマナーを実践している人の割合	3～5 歳児	34.6%	38.1%	①②③	P3 ⇒
			小学 5 年生	34.7%	38.2%		
			中学 3 年生	33.1%	36.4%		
			20 歳以上	26.8%	29.5%		
6	栄養バランスに配慮した食生活を実践しよう	1日に2回以上、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べる人の割合	20 歳以上	36.3%	39.9%	①②	P4 ⇒
			20 歳代	15.2%	16.7%		
7	朝食を食べよう	朝食を欠食する人の割合	3～5 歳児	6.5%	5.9%	①②	P5 ⇒
			小学 5 年生	10.4%	9.4%		
			中学 3 年生	19.2%	17.3%		
			20 歳代	51.6%	46.4%		
8	食事のあいさつをしよう	食事のあいさつ(いただきます・ごちそうさま)ができる人の割合	3～5 歳児	76.3%	83.9%	①②③	P7 ⇒
			小学 5 年生	69.4%	76.3%		
			中学 3 年生	64.5%	71.0%		
9	地産地消を意識しよう	旬のものや、国産品、地元(兵庫県内)で生産された食材を優先して購入する人の割合	20 歳以上	75.4%	82.9%	①②③ ④⑤⑥	P7 ⇒
10	食の安全に関心をもとう	食の安全に関心のある人の割合	20 歳以上	75.6%	83.2%	①② ④⑤⑥	P8 ⇒
11	食品表示を意識しよう	食品を購入する際、食品表示をほとんど見ていない人の割合	20 歳以上	11.7%	10.5%	①② ④⑤⑥	P8 ⇒
12	食品ロスを意識しよう	食品ロスが問題となっていることを知っている人の割合	20 歳以上	53.3%	58.6%	①② ④⑤⑥	P8 ⇒
13	農に触れ農を知る体験を増やそう	農業者等による「食」に関する講習会等の参加者数	市民等	840 人	850 人	①②③ ④⑤⑥	P9 ⇒
14	行事にちなんだ伝統料理(行事食)を次世代へ伝えよう	家庭や地域で受け継がれてきた伝統料理を次世代(子どもや孫を含む)や地域に対して伝えている人の割合	20～39 歳	40.5%	44.6%	①②③ ④	P10⇒
			40～64 歳	47.1%	51.8%		

(出典) ア 令和3年度市民意識に関するアンケート調査 (No.1)

イ 第3次たからづか食育推進計画策定のためのアンケート調査 (No.2～12・14)

(3～5歳児・小学5年生・中学3年生のその保護者に調査を実施)

ウ 農業振興計画「農」に関する講習会等参加数より抜粋 (No.13)

食育に関心を持ちましょう

食育は、子どもから大人まですべての方に必要なことです。

みんなで楽しく食事をする



家族・友人・地域・職場の仲間・・・一緒に食べることを通じてコミュニケーションをとることは、食育の原点です。

家庭で「食」について会話をする



食事の作法やマナーを覚える、食への興味を育てる、いろいろなことを話し合える等、食卓で聞いたことや学んだことは、将来、自立した食生活を送るために必要な力になります。

食事の準備などのお手伝い



買い物や調理、配膳、後片付けなどの経験によって、家事に興味を持ち、生きる力や考える力を育むことができます。

**こんなことも
食育です。**

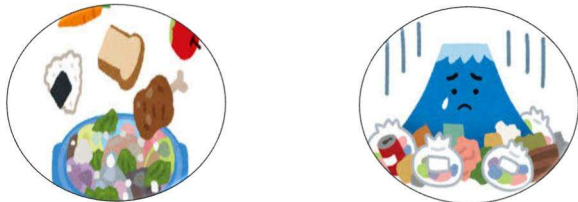
**身近なことから
始めてみませんか？**

食事のマナーを身につける



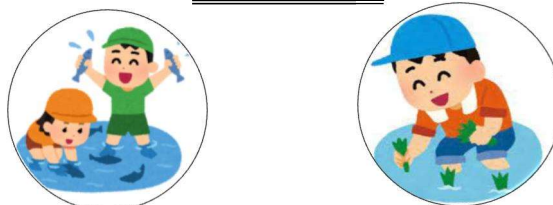
家族や仲間とおいしく楽しく食事をするために、お箸を正しく持つ、正しい姿勢で食べる等食事のマナーを実践することが大切です。

食べ物の循環について学ぶ



食品ロスをはじめとする食生活における環境への配慮についての理解が深まります。(P8 ⇒)

農林漁業体験



いただいた命や作ってもらった人たちへの感謝の心が芽生え、食について考える力が身につき、食べる意欲にもつながります。(P9 ⇒)



★大人は、食生活の知恵や経験を子どもたちに伝えていく役割を担っています。



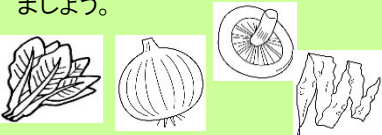
主食・主菜・副菜を組み合わせ食べてみましょう 《重点目標》

主食(黄)+主菜(赤)+副菜(緑)を組み合わせ、栄養バランスに配慮した食生活は、生活習慣病予防や死亡リスクの低下にも関係しています。

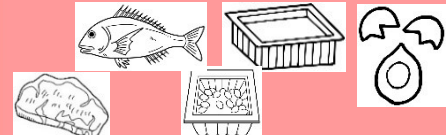
また、栄養面だけでなく見た目の彩りが良くなることで、食欲増進につながります。

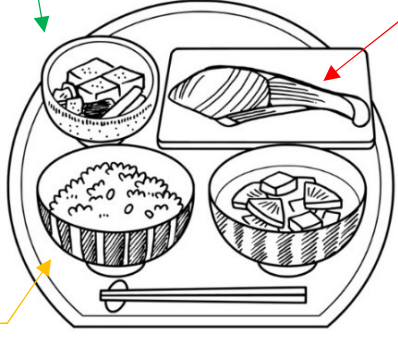
疲れている時など料理をするのが大変な時は、外食や中食をうまく利用しましょう。

「副菜」に多く含まれるビタミンやミネラルで、体の調を整えましょう。




「主菜」に多く含まれるたんぱく質で、体の筋肉や血液を作りましょう。



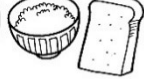


「主食」を中心に、体のエネルギーをとりましょう。




献立を立てる時のポイント


① 主食を決める



② 主菜を決める



③ 足りない食品を補う
おかずや汁物を決める



検索 | 宝塚市 食育 食事の基本バランスよく食べていますか



主食・主菜・副菜を組み合わせ食べるための工夫の仕方

主食(黄)・主菜(赤)・副菜(緑)が別皿になっている「定食パターン」だけでなく、それらを組み合わせた料理を上手に活用しましょう。一度にいろいろな栄養を摂ることができます。

- (例) ミートスパゲティ ⇒ パスタ麺(主食)+ミートソース(主菜)+玉ねぎ・人参(副菜)
 煮込みうどん ⇒ うどん・もち(主食)+鶏肉・エビ(主菜)+白菜・人参・ネギ(副菜)
 すき焼き ⇒ 牛肉・焼き豆腐(主菜)+玉ねぎ・白菜・春菊(副菜)
 かつ丼 ⇒ ごはん(主食)+豚肉・卵(主菜)+玉ねぎ・三つ葉(副菜)
 豚汁 ⇒ 豚肉・豆腐・油揚げ(主菜)+大根・ごぼう・人参・ねぎ(副菜) 等

検索 | 宝塚市 食育 簡単に作れるメニュー



ひと口入れたら 30 回を目標に、しっかりよく噛んで食べるのが大切です。

また、食べすぎや塩分・脂質の摂りすぎにならないように注意することも大切です。

検索 | 宝塚市 食育 上手に減塩をしましょう

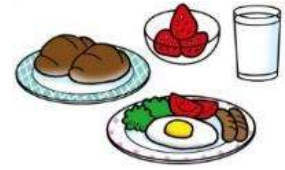
検索 | 宝塚市 食育 脂質の摂りすぎに注意しましょう



朝食を食べましょう

朝食の効用

- ① 脳のエネルギーを補給します
- ② 眠っていた体を起こし、体を温めます
- ③ 腸を刺激して便秘がよくなります
- ④ 昼食の食べすぎを防止します（肥満防止にもつながります）



検索 | 宝塚市 食育 朝ごはん 食べていますか



今の朝食より、よりよい内容にするための工夫の仕方

朝食を食べる習慣がない人は、まずは簡単に食べられるものを用意しましょう。

今の食事のパターン	ア ド バ イ ス
朝、何も食べていない人	<p>主食や果物や乳製品など、何か1品、食べやすいものから始めてみましょう。</p>
主食を食べていない人	<p>ご飯やパン（菓子パン除く）など、体を動かすエネルギー源を増やしてみましょう。</p>
主菜や副菜を食べていない人	<p>魚や肉、豆腐や卵などの主菜又は野菜などの副菜を増やしてみましょう。または、牛乳やヨーグルトなどの乳製品を増やしてみましょう。</p>
主食+主菜+副菜を食べている人	<p>地産地消や環境のことも考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旬の食材を使っていますか？ ・宝塚産農産物を優先して購入していますか？ ・食品を無駄に捨てたりせず大切に利用していますか？

検索 | 宝塚市 食育 朝ごはんにおすすめ ちゃちゃっとかんたん★レシピ♪



検索 | 宝塚市 保育所給食レシピ集



検索 | 宝塚市 学校給食レシピ集



朝食を毎日食べるとこんないいこと (農林水産省 ホームページより)

朝食を毎日食べる人は、そうでない人と比較して…

- ①小学生～大学生を対象とした研究では、「イライラする」「集中できない」といった訴えが少なく、心の状態を良好に保つことができていたことが報告されています。
- ②中学生を対象とした研究では、学力が高い(学校の成績や学力テストの点数が良い)ことが報告されています。



自分の適正体重を意識しましょう

生活習慣病の予防や改善のためには、日頃から適正体重の維持を心がけた食生活が大切です。

$$\text{標準体重} = \text{身長(m)} \times \text{身長(m)} \times \text{BMI(kg/m}^2\text{)}$$

年齢ごとの目標とするBMIの範囲

年齢(歳)	目標とするBMI(kg/m ²)
18～49	18.5～24.9
50～64	20.0～24.9
65歳以上	21.5～24.9

標準体重の範囲を下回っていた人はやせ、上回っていた人は肥満の判定となります。

(※) 妊娠中の方、乳幼児は、母子健康手帳で確認しましょう

(例) 65歳 身長 155cmの場合

$$1.55(\text{m}) \times 1.55(\text{m}) \times 21.5 = 51.7$$

$$1.55(\text{m}) \times 1.55(\text{m}) \times 24.9 = 59.8$$

標準体重は、51.7～59.8kg の範囲となります。

(参考) 身長別、65歳以上の標準体重

身長	標準体重
150cm	48.4 ～ 56.0kg
160cm	55.0 ～ 63.7kg
170cm	62.1 ～ 72.0kg

20歳代の女性の皆さん 「やせ」には様々な危険があることをご存じですか。

やせは、疲れやすい、息切れ、月経不順や無月経、お肌の調子が悪いなどの不調の原因になることがあります。ご自身の標準体重を確認してみましょう。

また、朝食を抜いたダイエットを行っていませんか？

朝食を欠食すると、次の食事を食べ過ぎたり、欠食時間が長くなる分、吸収力が高くなり、肥満や生活習慣病の発症につながる可能性があります。



食事のあいさつをしましょう 《重点目標》



「いただきます」

「いただく」は、もともと「頭にのせる」の意味ですが、物をもったり、飲食することを意味するようになりました。私たちが生きていくために命をくれた動植物や自然の恩恵、米・野菜などを作った人や料理してくれた人への感謝など、さまざまな感謝の気持ちが込められているといわれています。



「ごちそうさま」（御馳走様）

「馳走」は食事の用意で走りまわること。走り回って食事の準備をしてくれたことに対する感謝の気持ちが込められているといわれています。

食事の前と終わりのあいさつは、日本の食文化の1つであり大切にしたい習慣です。あいさつの意味を知り、感謝の気持ちが自然に言える食事の機会を大切にしましょう。

地産地消を意識しましょう 《重点目標》

地産地消のいいところ ※地産地消＝地元で生産されたものを地元で消費すること

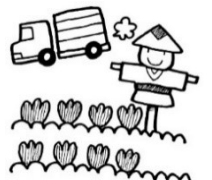
- 採りたて！新鮮！栄養価が高い！
- 生産者と消費者、お互いの顔が見える関係になり、結びつきが強くなる
- 「生産者の顔」が見えて安心、信頼できる
- 地域の活性化
- 流通コストの削減
- 食料自給率の向上につながる（令和2年度(2020年度)37%）
- フード・マイレージ



食品のとれた(生産された)場所から食べる場所まで運ばれる距離。食品の重量×輸送距離で算出します。フード・マイレージが高いほど食料の輸送により排出される二酸化炭素の量が多く、環境への負荷が大きいこととなります。

※西谷地区にある「西谷ふれあい夢プラザ(西谷夢市場)」では、新鮮な農産物のほか、地元産のお米や牛乳、その加工品などが販売されています。

※宝塚産農産物は、西谷地区以外にも、宝塚朝市、西谷朝市(「たからの市」内)など南部地域でも販売されています。



検索 | 宝塚市 西谷夢市場



宝塚朝市、西谷朝市(「たからの市」内)
西谷野菜が買えるところ
『「西谷野菜」が、ご近所に。』をご覧ください

⇒⇒

検索 | 宝塚市 農業 即売会



食の安全に関心を持ち、食品表示を意識しましょう

消費期限

弁当や総菜など傷みやすい食品に表示されています。
この期限を過ぎると衛生上の危害が生じる可能性があります。

賞味期限

缶詰やスナック菓子など、消費期限に比べ傷みにくい食品に表示されています。
品質の劣化が遅いことから、この期限を過ぎてもすぐに食べられなくなるわけではありません。

※消費期限や賞味期限は、保存方法に記載されている方法で保存した場合の期限です。決められた方法で保存していない場合や開封後は、期限が切れる前であっても品質が劣化していることがあります。

栄養成分表示

容器包装に入れられた加工食品及び添加物には、「エネルギー(熱量)・たんぱく質・脂質・炭水化物・食塩相当量」の表示が義務化されています。

〈表示例〉

栄養成分表示(1食〇g当たり)	
エネルギー	●●●kcal
たんぱく質	〇〇g
脂質	■■g
炭水化物	□□g
食塩相当量	★★g

塩分を、摂りすぎていませんか？

日本人の1日の食塩目標摂取量

- ・男性:7.5g未満
- ・女性:6.5g未満

※高血圧の人は6.0g未満

(厚生労働省「日本人の食事摂取基準 2020」による)

食品表示からいろいろな情報がわかります。

表示を見る習慣で、食品を選ぶ力をつけ、健全な食生活を送りましょう。

食品ロスを意識しましょう 《重点目標》

本来食べられるのに捨てられてしまう食べ物のことを、食品ロスといいます。

食べ物を捨てることは、もったいないだけでなく、食品ロスが増えると食品の製造と廃棄に使ったエネルギーが無駄になり、地球温暖化に大きな影響を及ぼします。

日本では、令和2年度(2020年度)に、年間約522万トンの食品ロスが発生したと推測されています。



国民1人当たりの食品ロス量に換算するとどれくらい？

1日当たり = 約113g = お茶碗1杯分(約150g)のご飯の量に相当

年間当たり = 約41kg = 年間1人当たりの米の消費量(約53kg)に近い量に相当

資料:総務省人口推計(2020年10月1日)、農林水産省 令和元年度食料需給表(確定値)

買い物や調理、外食で食品ロスを減らすための工夫の仕方

家庭

- 買い物
 - ・買い物へ行く前に、在庫食品の確認をする
 - ・必要な食材を必要なだけ買う
 - ・すぐに消費する食品は、商品棚の手前から取る
- 調理
 - ・食材を無駄なく使い切る
- 食事
 - ・食べる量だけ調理し、食べ残しをしない
 - ・余った料理は冷蔵保存や作り変えて食べきる

外食

- 注文時
 - ・食べきれぬ量を注文する
 - ・食べられない食材は事前に伝える
- 食べきれないと思った時
 - ・持ち帰る



必要な量の食品を購入し、食べる量だけ調理する、野菜は皮も利用するなど、食材を無駄にせず食品ロス削減を意識しましょう。

農林漁業体験に取り組むとこんないいこと（農林水産省 ホームページより）

- ①小・中学生を対象とした研究では、農林漁業体験に取り組むことで、食べ物を大切にする意識や食べ物への関心を持つようになることが報告されています。
- ②幼児を対象とした研究では、農林漁業体験に取り組むことで、野菜を食べる量が増えるなど、食生活にいい影響を与えることが報告されています。

※農林漁業体験には、田植え（種まき）、稲刈り、野菜の収穫、家畜の世話などが含まれます。



「ろすのん」の由来

ろすのんの名前は、食品ロスをなくす(non)という意味で、外見の真ん中の赤丸は「お皿」を、下の二本線は「お箸」をイメージしています。

ろすのん（食品ロス削減国民運動のキャラクター）

宝塚市は、「おいしい食べ物を適量で残さず食べきる運動」の趣旨に賛同した普通地方公共団体により、食べきり運動等の3Rを推進し食品ロスを削減することを目的として設立された「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」に参加しています。

検索 | 宝塚市 環境 3010 運動



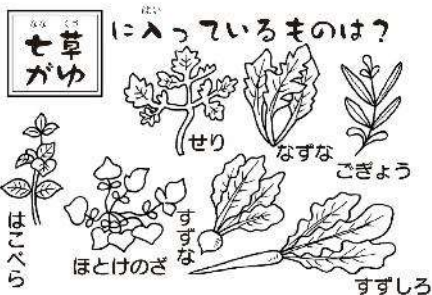
日本の伝統料理を次世代へ伝えましょう 《重点目標》

季節ごとの年中行事やお祝いの日食べる、その季節にあった旬の食材が使われた特別な料理のことを行事食と言います。

行事食には、無病息災や子孫繁栄、子どもの健やかな成長など、家族の幸せや健康を願う意味が込められています。

いくつか知っていますか？（行事食は、他にもたくさんあります。）

年中行事		行事食
1月1日	正月	おせち料理・お雑煮 など
1月7日	人日(じんじつ)の節句	七草粥(ななくさがゆ)
2月3日頃	節分	いわし・豆・巻き寿司 など
3月3日	上巳(じょうし)の節句 ※別名:桃の節句	ちらし寿司・はまぐりのお吸い物 菱餅・ひなあられ など
3月21日頃	春分の日	ぼた餅(こしあん)
5月5日	端午(たんご)の節句 ※別名:菖蒲の節句	ちまき・かしわ餅 など
7月7日	七夕(しちせき)の節句 ※別名:笹の節句	そうめん
7月20日頃	土用の丑の日	うなぎ・土用しじみ 梅干し など
9月9日	重陽(ちょうよう)の節句 ※別名:菊の節句	菊花酒・食用菊の料理
旧暦8月15日	十五夜	月見団子・里芋料理 など
9月23日頃	秋分の日	おはぎ(つぶあん)
11月15日	七五三	赤飯・千歳あめ
12月22日頃	冬至	かぼちゃ料理・小豆料理 など
12月31日	大晦日	年越しそば など



市のホームページに、各行事食の説明やレシピを掲載しています。ご覧ください。

検索 | 宝塚市 食育 日本の食文化



《西谷地区のちまき》

全国でも珍しい「ヨシ」と「ナラガシワ」の2種類の葉を使った、西谷地域の伝統的なちまきです。令和2年には、宝塚市無形民俗文化財に指定されました。(右:写真)
詳しくは市ホームページをご覧ください。



検索 | 宝塚市 西谷地区のちまきの食文化

第3次たからづか食育推進計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

本市では、国や県の策定した計画を踏まえ、平成23年(2011年)に、「次世代へつなごう！正しい食習慣のバトン！」をスローガンに、「たからづか食育推進計画」を、平成28年(2016年)に、「第2次たからづか食育推進計画」を策定し、行政、学校園、保育所(園)、地域団体、事業者、生産者、関係機関・団体が連携・協力し、食育に関する各種施策を展開してきました。

令和5年(2023年)3月に、第2次計画が終期を迎えることから、これまでの食育推進の成果や課題、食をめぐる現状や課題を踏まえ、今後も、食育に関する施策をより一層推進することを目的に、令和5年度(2023年度)から令和9年度(2027年度)までの5年間を計画期間とする、「第3次たからづか食育推進計画」を策定しました。

2 基本体系

基本理念	
大人も子どもも、様々な経験を通じて「食に関する知識」と「食を選択する力」を身につけ正しい食習慣を実践することで、心身の健康と豊かな人間形成を育む。	



3つの指針	
指針1	子どもの頃から増やそう「食」とのふれあい ～ 毎日の「食」が豊かな心と身体を育てます ～
指針2	伝えていこう！食生活の知恵や経験 ～ まずは大人が肝心！子どもたちの見本です！ ～
指針3	「食」の未来を守ろう ～ 命の恩恵を受けることへの感謝の気持ちを大切に ～



6つの施策	
施策1	家庭における食育の推進
施策2	保育所(園)・学校園における食育の推進
施策3	地域における食育の推進と食文化の継承
施策4	事業者における食育の推進
施策5	安全・安心な食の推進
施策6	環境を意識した食生活の推進

重点目標 基本的かつ重要な5つの重点目標を設定し、取組を進めていきます。

- 栄養バランスに配慮した食生活を実践しよう
- 食事のあいさつをしよう
- 地産地消を意識しよう
- 食品ロスを意識しよう
- 行事食にちなんだ伝統料理(行事食)を次世代へ伝えよう

(詳細はP2参照)

第3次たからづか食育推進計画

発行：宝塚市 編集：健康推進課

〒665-0827 宝塚市小浜4丁目4番1号

TEL 0797-86-0056 FAX 0797-83-2421

検索 | 宝塚市 第3次たからづか食育推進計画

